【対象と方法】2000年2月から2003年10月までの期間に予防的EIS目的で杏林大学病院に入院した肝硬変者を、本人の同意を得たうえで無作為に3群に分離し、EIS術後の経口栄養開始時から、全例同一エネルギー摂取群（200–210kcal/日）となるように経口栄養療法を投与した。A群（10例）には綜合栄養療法1日2回（BCAA量：32g/日）を朝食時、夕食時2回に分割投与した。B群（9例）にはBCAA製剤1日2回（BCAA量：11.2g/日）を朝食時、夕食時2回に分割投与した。C群（10例）にはBCAA製剤1日2回（朝食時・夕食時）を経口栄養療法に加えて投与し、栄養状態の評価の目的で、体重、血圧、血球数、体重が変動する1週間後に検査した。投与後、経口栄養療法を続けた。

【結果と考察】各群間において有意差は認めなかったが、推移の傾向を示したものは、BCAA投与群において、体重、血圧、血球数、体重が変動する1週間後に検査した。投与後、経口栄養療法を続けた。

【結論】BCAA製剤を投与した経口栄養療法において、EIS施行目的肝硬変者の栄養状態の維持・改善が期待できる可能性が示された。

本論文は、肝硬変者の生命予後に重大な影響を及ぼす食道静脈瘤に対して、EIS療法を投与する者の栄養状態の維持・改善に寄与し、BCAA投与群においての栄養状態の維持・改善が期待できる可能性が示された。